

M-1 グランプリにおけるウケる漫才の研究

福田修之

本研究では、毎年 12 月にテレビ朝日系列で放送されている漫才日本一を決める大会、M-1 グランプリにおいて、第一回大会から卒論執筆次点での最新大会である第 19 回大会までの全てのネタを見た上で、ウケる漫才とウケない漫才の研究を行った。先行研究で、現代の漫才には「対話型」と「演説型」の 2 種類があり、近年の M-1 グランプリでは演説型の漫才が増えていることが明らかにされていた。この二つの型は演者の発話方向によって分類されるのだが、演説型の漫才が増えているのは、演説型漫才は発話方向が対相方ではなく観客に向けられているため、観客とのコミュニティを共有しているという感覚が強いからであるということが分かった。また、M-1 グランプリでは演芸要素の薄い漫才が有利であること、笑いの種類には<不一致の笑い>や<日常のパッケージ化>といった種類の笑いが有効で、反対に<シュールの笑い>はウケづらいということ、また、自虐要素の強いネタは受け入れられにくい、自虐をユーモアに消化できれば、ウケる可能性はあるということが分かった。

今後の M-1 グランプリでは、これらの要素をクリアし、観客を漫才に巻き込むことができたコンビが優勝していくと考えられる。